

平成30年度予防接種対策委員会 会議録

- 1 開催日時
平成30年11月22日（木）
開会 午後2時00分
閉会 午後3時15分
- 2 開催場所
尾張旭市保健福祉センター 2階 201会議室
- 3 出席委員
金森俊輔、安藤郁子、新川成哲、鈴木康元、大江英之 5名
- 4 欠席委員
2名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 事務局職員
健康福祉部長 森喜久子、健康課長 臼井武男、
課長補佐兼健康係長 加藤ひとみ、主査 上原敦子、主査 廣岡真由美
- 7 議題等
 - (1) 委員長選出について
 - (2) 平成29年度及び平成30年度尾張旭市予防接種実施状況について
 - (3) 平成31年度尾張旭市予防接種事業実施計画（案）について
 - (4) 予防接種間違い事例について
 - (5) その他
 - ア コッホ現象疑いケースの経過
 - イ 風しん対策事業の実施状況について
 - ウ 予防接種スケジュール管理モバイルサイト「あさびー予防接種ナビ」アンケート結果について

8 会議の要旨

事務局	開会のあいさつ。 乳幼児の予防接種スケジュールは過密かつ複雑になり、医療機関の協力を得ながら適正接種を推進している。予防接種スケジュールを自動作成するあさびー予防接種ナビも始めた。 本市の予防接種事業を確認していただき、専門的な見地からご意見くださいますよう、よろしく願いしたい。
事務局	委員会条例第6条に基づき、委員の互選により委員長選出及び職務代理者決定。 金森委員を推薦する声があり、委員の賛成により金森委員が務めることとなる。 職務代理者は委員長より指名のあった安藤委員が務めることとなる。

委員長	あいさつ。
事務局	『平成29年度及び平成30年度尾張旭市予防接種実施状況について』説明。
委員A	()内は尾張旭市民が受けた広域予防接種件数ということだが、逆に他自治体の住民がどれくらい市内で受けているかは把握できないか。
事務局	把握できません。
委員A	どういった医療機関で受けることが多いのか。
事務局	名古屋、長久手等が多い。県内で里帰りするなどで、稲沢、一宮、三河方面の申請もときどきあるが、多くは近隣の市町となっている。
委員A	理由としては、医学的理由というよりは、かかりつけが多いのか。
事務局	転入前のかかりつけで引き続き受たい保護者のかかりやすさ等の理由が多い。また今年度は、MRを早く受たいが、かかりつけ医でワクチンが無く、あるところを探したが市外だったということで、広域接種の申請をしたということがあった。
委員A	手続きは、市役所などに手続きに行く必要がある、ということで良いか。
事務局	連絡票の作成が必要なので、申請手続きに来てもらうことは必須である。
委員A	居住地と接種地の両方の市町村に行かないと行けないのか。
事務局	居住地への申請のみ必要。連絡票をもって直接接種医療機関へ行けば良いので、接種地の役所へ行く必要はない。
委員A	高齢者も同じか。
事務局	同じです。
委員A	BCGの医学的理由というのはどういう場合か。
事務局	定期外。ステロイド治療等で予防接種が定期の年齢内で実施できない場合など、長期療養児への対応として定期と同じ扱いで実施する。
委員A	BCG接種は開業医では難しい。
事務局	『平成31年度尾張旭市予防接種事業実施計画(案)について』説明。
	特に意見なし。
事務局	『予防接種間違い事例について』説明。
委員B	同じ医療機関の異なる診療科というのはどういうことか。
事務局	同じ医療機関内の整形外科と内科を受診している患者で、それぞれの科ですすすめられた。本人が、受けた記憶が定かでなかったため、重複となった。カルテには記載があったと思われるが、院内の科を跨いだ管理体制が不十分だったと思われる。健康課で接種台帳を整理している中で発見した。
委員A	30年度の事例で、患者都合でスケジュールがずれたため、と言うケース。これは非常に危険だが、よくあるケース。モバイル利用時、スケジュールがずれた場合に、次のワクチン接種時期がずれるという注意は表示されるのか。医療機関でスケジュール管理していれば、変更時はその旨伝わり、後のスケジュールもずらすことは可能だと思いが。
事務局	ナビは接種日を入力すれば、次の接種日の案内を自動で組み替えてくれる。今回のケ

	ースは、医療機関で管理してもらっている紙ベースのスケジュールを、その後の日程の修正が無いまま接種した。予約時、予診票の記載内容、母子健康手帳の確認などいくつか見落としがあったケース。
委員A	2、3のケースは接種に慣れていても起こしやすい。同時接種時には1つのワクチンの間隔のみ確認して、他の予防接種の間隔についてはおろそかになりやすい。母子健康手帳のページが跨いでいるとなおさら確認もれが起こりやすい。
事務局	保護者は予診票へ接種歴の記載はしていたが、接種時予診票のチェックでもれてしまっていた。
委員A	このような事例があったということを周知することが必要。
事務局	医師会へも提示して再発防止策等検討してもらえるとよい。
委員B	健康被害はでていないか。
事務局	出ておりません。
事務局	『平成30年度コッホ現象疑いケースの経過』説明。 相談を受けたケースは資料作成時6件。ケース1～5は陶生病院へ写真を送り確認してもらったが、数日後に症状が軽減したため受診はしていない。ケース6は佐伯小児科にて別件で受診時に確認してもらい、先のケースと同様、数日後に症状軽減のため経過観察終了となった。資料作成後もう2件相談があった。うち1件は反応が強く出たため、陶生病院を受診、レントゲン、ツベルクリン反応検査、血液検査実施した。結果は特に異常は無かった。1か月後の通常反応が出るかの確認をしていく予定。反応が強く出たのは、物理的なことが原因ではないかとのことだった。
委員A	11月の事例は、特に接種当日体調不良だった、ということはないか。
事務局	特にありませんでした。
事務局	『風しん対策事業の実施状況について』説明。 現在、愛知県においても風しん患者が増加しており、その対策が必要となっている。そのため、県が県内市町村の成人に対する風しん抗体検査と予防接種について県の補助事業対象者以外で、市町村独自の対象者へ補助を行っているか等をまとめた資料を提示する。 風しんの流行により、先天性風しん症候群の児の出生増加が危惧される。抗体検査や予防接種の必要性が高くなっている。来年度県は抗体検査の対象者を拡大することを検討しているが、詳細はまだ未定である。今後県の動向を見ながら対応していきたい。
委員B	尾張旭市では女性のみが対象か。
事務局	そうです。県の制度に則って実施している。
委員B	妊婦の配偶者への対応も話に出ているが、その場合の対応は職場で行うことが理想的。
委員A	妊娠前まで働いている女性も多いので、職場での対策は必要。感受性のある男性が予防接種を受けてもらわないといけない。本当はもっと対象を広げることが必要。
事務局	民間企業でも少しずつ取り組みが広がっている。行政だけでなく職域での対応・協力も必要だと考えている。

	(新川委員、本人都合により途中退席)
委員A	将来男性への対策が出てくればぜひ、お願いしたい。
事務局	国では30～50歳代の公費での風しんの予防接種機会のなかった男性を対象に、抗体検査の実施について、現在予算計上されている。検査を受け抗体価が無かった人をどうするのか、というところは具体的に示されていない。今後の動向によっては、各市町で検討していくことになると思われる。
委員A	奥さんがいれば受けるだろうが、いなければはたして接種してくれるか、というところもあるが。
委員B	2013年に大流行をした際の前年の2012年と今回が似ている。冬になると少し数が減るが、次年度に患者がもっと増える。このままでは2020年まで続くのでは、という報道もあった。
委員A	先天性風しん症候群が怖い。尾張旭市では先天性風しん症候群の児の出生は無かったと思うが、瀬戸市ではあったと思う。
事務局	今回欠席の森下委員から、先天性風しん症候群の児が一人生まれると、将来にわたって医療費や教育費等多くかかってくる。予防できるところで対策を取ることで将来かかる費用を抑えることができるだけでなく、児の一生に関わる問題でもあり、国や県を含めて検討して欲しいと言われた。
事務局	『予防接種スケジュール管理モバイルサイト「あさびー予防接種ナビ」アンケート結果について』説明。 平成28年6月から配信を開始。今後の利活用のためにアンケートを実施した。 7月から10月に行われた1歳6か月児健康診査と2歳3か月児歯科健康診査・健康相談の参加者を対象にアンケートを事前に送付し、健診会場で回収する方法で実施。 回収率は73.4%。 配信されていることを知っているのはおよそ8割。登録しているのは、配信されていることを知っている人で約6割。登録者のうち、スケジュール管理に役立っていると答えたのは約7割であった。登録している者の内、約半数が0歳から1歳までに登録をしていて、予防接種が始まる前の0～1か月時点で登録される割合が多い。
委員C	スマートフォン以外でも利用できるのか。
事務局	モバイルサイトなので利用可能。ただ、今の母親はアプリを使い慣れているので、アプリなら使うが、モバイルサイトは面倒、という意見もあった。以前からある他のアプリを使っていると言う声もあった。また、医療機関で丁寧にスケジュールリングしてもらえているので、あえて自分で管理しなくても、と思われているかたもみえた。医療機関でかなり手厚く管理してもらっていることが今回アンケートでわかった。

委員C	変更時などの対応をしっかりとんでもえらると良い。BCGからの間隔を空けずにB肝をうけてしまった間違いがあった。当院でスケジュールを立てていて、B肝が終わるまでBCGはいいと伝えてあったが、BCGの通知が来たため受けに行ってしまった。これで確認できるとよい。今回の間違いを機に、前回接種について、何をいつ受けたか日付まで明記するよう改善した。
事務局	保護者へは予防接種同士の間隔を周知しているが、医療機関にお任せ、ということもよく聞く。自分の子どものことなので、自分でしっかり管理してもらいたい。そのことを伝えていくことも市の役割と思われる。医療機関に任せている状態では、間違いを防ぎきれない。市としての間違い防止の対策だと思っている。
委員A	インフルエンザの接種歴の記入について、市内医療機関は母子健康手帳に記入しているが、市外では記入しないところもあるようだ。記入していない場合、保護者が失念していると確認しようがない。間違いに繋がってしまう。この時期は特に気を使う。インフルエンザの予防接種を行う医療機関で子どもの接種をするところもある。母子健康手帳に接種歴を必ず記入してもらうことを周知して欲しい。
委員C	母子健康手帳を持ってきても記入しないのか。
委員A	持ってこなくても良いといっているのかもしれない。
事務局	任意接種なので、母子健康手帳の必要性まで意識していないのかもしれない。ただ市外医療機関でも、小児科・内科などはほとんど記入してある。今後は保護者へ、任意の予防接種も必要な記録であることを周知していきたい。
	その他連絡事項等なし。
	(予防接種対策委員会を閉会)